

8 月号

26.7.30

～猛暑が続き、作物も人もつらい毎日です。
バテないように対策必須です。～

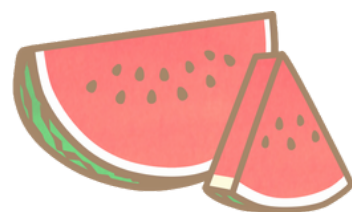
川口肥料ニュース



近年の生育不良の要因はまさしく **”猛暑、酷暑”** です！
高温ストレスによる光合成の低下（光合成産物の減少）をミネラルや
活性剤で予防しましょう。

この夏も猛暑やゲリラ豪雨が続きと予想されています。これまで『土づくりで生育不良を
軽減する手法』をいくつかご紹介してきました。

- ①団粒構造の土作り ②適正pH矯正 ③窒素肥料のやりすぎ注意
④微量要素・ミネラルの補給 ⑤ケイ酸の充足施用
など、弊社HPのバックナンバー記事をご確認ください。



1. 高温障害の要因

高温障害の要因の一つは呼吸による炭水化物の消費です。特に夜温が
高い場合、昼間光合成で作られた光合成産物（炭水化物）が夜の呼吸で
消費されてしまいます。植物は細胞で呼吸しています。細胞内のCaの
消耗も激しくなり、生育に必要なエネルギー・養分が不足する事態にな
ってしまいます。

また、日照があっても気温が30℃を超える場合や生育適温との気温
差が大きいほど光合成量は減少します。

高温時はこの二つの要因が重なりやすいため、生育の停滞や代謝異常
を引きおこし、植物の健康状態を損なうのです。さらに、高温時には植
物の蒸散量が増加し水分バランスが乱れたり、地温が上がりすぎて毛細
根が焼け死んでしまい、葉の萎れや養分吸収不良などの症状が現れるこ
とがあります。

植物は葉から水分を蒸散し、その気化熱を利用して葉温を下げようと
します。水分が不足すれば植物自身が蒸散させないよう気孔を閉じてしま
い生長を拒否してしまいます。よって水分管理が重要と考えます。

2. 微量要素（ミネラル）施用の有効性

高温障害への対策としては光合成能力を高める（落とさない）ことと、
水分バランスを保つこと、毛細根の発育が重要と考えます。対策とし
て、**ヒカリミネラル**や**キドカル**、**ルネサンス**が有効となります。

- ①葉緑素の生成。 光合成能力の向上維持。
- ②葉肉を厚くし、乾燥・紫外線から守るためのワックス効果
（※光合成のできる炭水化物が葉のワックスになる。）
- ③毛細根の発根・伸根を促進。水分バランスを整えやすくする。

などの効果があげられます。

以上、いくつかの対策方法を上げましたが、植物の生理と土壌のバランスを整えなが
らこの厳しい猛暑の夏を乗り切りましょう！

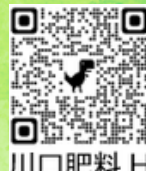
おすすめ資材



川口肥料株式会社

〒437-1416 静岡県掛川市三俣902

☎ 0537-72-2663



川口肥料 HP



松下ライン